

氏名	山本 矩朗
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第101号
学位授与の日付	昭和39年12月7日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	若菜病の治療に関する研究
論文審査委員	教授 平木 潔 教授 小坂 淳夫 教授 稲臣 成一

学位論文内容要旨

若菜病の肺症状が主として肺内仔虫の刺激によるものと考えから、仔虫の殺滅を目的として数種薬剤溶液による鉤仔虫障害実験を試み障害作用大なる燐酸クロロキン、スチブナール、マフアーセン静注後の採取人血清による仔虫障害実験を行なったところ、燐酸クロロキンに特に強い障害作用を認め、スチブナール、マフアーセンにおいてもかなりの障害作用を認めた。

そこでこれら薬剤による臨床試験を試みた結果、極めて卓越せる効果を認め、燐酸クロロキンでは三者のうち抜群の効果をおさめ、スチブナール、マフアーセンにおいても顕著な効果が認められた。次にこれら薬剤の作用機序を更に究明するため、犬鉤仔虫感染マウスの肺内移行仔虫に及ぼす影響を検討したところ、更に一段と明瞭な障害像を認め、燐酸クロロキンでは著明な障害作用を認め、スチブナール、マフアーセンでもかなりの障害作用が認められた。

以上よりこれら薬剤は鉤仔虫、殊に肺内仔虫を著明に障害するものであり、若菜病の肺症状の成因として勿論アレルギーの関与は確実であろうが、仔虫による機械的な刺激がその主因をなすものと考えられる。

昭和33年4月 日本消化器病学会大会において発表

昭和34年4月 日本消化器病学会総会において発表

昭和34年9月 日本消化器病学会大会第二次発表会において発表

昭和35年4月 日本消化器病学会総会において発表

昭和39年3月 岡山医学会雑誌 第76巻1・2・3合併号に掲載

論文審査の結果の要旨

山本矩朗提出の「若菜病の治療に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

著者は若菜病の肺症状が主として肺内仔虫の刺激によるものと考えから、仔虫の殺滅を目的として数種薬剤による鉤仔虫障害実験を試み、磷酸クロロキンに特に強い障害作用を認め、ステブナール、マフアーセンにおいてもかなりの障害作用を認めている。次にこれら薬剤による臨床試験を試みた結果、極めて卓越せる効果を認め、磷酸クロロキンでは三者のうち抜群の効果をおさめ、ステブナール、マフアーセンにおいても顕著な効果を認め、特に磷酸クロロキンの静脈内投与は本症に対する特効的優秀な療法であると述べている。また著者はこれら薬剤の作用機序を更に究明するため、犬鉤仔虫感染マウスの肺内移行仔虫に及ぼす影響を検討した結果、磷酸クロロキンでは著明な障害像を認め、ステブナール、マフアーセンでもかなりの障害像を認め、以上よりこれら薬剤は鉤仔虫、殊に肺内仔虫を著明に障害するものであり、若菜病の肺症状の成因として勿論アレルギーの関与は確実であろうが、仔虫による機械的な刺激がその主因をなすものと考察している。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。